

町民の皆様へ

安心して医療を受けられる町を目指して

～西村山地域に整備する新病院の「建設予定地」の決定を受けて～

(建設予定地決定までの経過)

西村山地域に整備される新病院については、県と寒河江市が設置する「山形県立河北病院及び寒河江市立病院の統合再編・新病院整備に関する協議会」において協議検討が進められております。令和6年度に策定された基本構想では、建設候補地として、寒河江市内と河北町内の計7か所が抽出されました。

6月2日に開催された当協議会第5回運営委員会では、建設候補地7か所の中から①交通アクセス ②災害動向 ③診療エリアの継承 ④まちづくり等の視点ごとに評価項目を設け、評価基準に基づく配点により評価され、1位が陵東中学校敷地、2位が陵南中学校敷地、3位が寒河江市立病院敷地、県立河北病院敷地は4位という結果となり、上位3つの候補地の中から建設予定地が決定されることになりました。

これを受けて、7月10日に開催された協議会において、県知事と寒河江市長との協議により、新病院の建設予定地は、「陵東中学校敷地」に決定されました。

(建設予定地の決定について)

県立河北病院の所在地である町として、地域の医療を守るため、県立河北病院の存続、新病院の県立河北病院敷地への整備を訴えてまいりましたが、町民の皆様の切実な思いは叶わず極めて残念な結果となりました。

新病院の整備に向けては、地域住民が利用しやすい病院、医療・介護・福祉関係者の現場の意見が十分に反映された納得と共感が得られる病院、医師をはじめとする医療従事者が勤務したいと思う病院づくりが望まれます。

今回の新病院建設予定地の決定を受け、県、寒河江市には、これまで以上に地域、医療、介護、福祉現場の声を積極的に聴取し、西村山地域の中核病院として必要となる医療機能の検討、医療体制の構築を図っていただきたいと思います。

町といたしましても、引き続き、県と寒河江市による新病院整備基本計画の策定を注視していくとともに、令和13年の新病院開院を見据え、町民の通院手段の確保や休日・夜間診療体制の確立、かかりつけ医となる町内開業医と新病院との医療連携など、町民の医療確保に全力で取り組んでまいります。

(新病院の運営母体について)

県と寒河江市が検討協議を進めている県立河北病院と寒河江市立病院を統合する新病院の整備に向けた運営母体への参画について、熟考を重ねてまいりました。新病院の整備、運営には、併せて毎年22億円、地方交付税措置を見込んでも運営母体全体の財政負担は毎年18億円との試算が示されております。

町の税収が20億円である河北町にとって、このように極めて大きい財政負担を伴う運営母体への参画は極めて困難であると判断しており、運営母体には参画せず、令和13年の新病院開院を見据えながら、町民の通院手段の確保や休日・夜間診療体制の確立、かかりつけ医となる町内開業医と新病院との医療連携など、町民の医療確保に全力で取り組んでまいり所存です。

(結びに)

町民の皆様には、「地域医療と県立河北病院を考える会」の構成団体、区長会など関係各位のご理解、ご尽力をいただきながら、町民が安心して医療を受けられる環境を確保するため、県立河北病院の充実、地域医療体制の充実を願い、要望、署名活動など特段の対応をいただきました。深く感謝申し上げます。

今後とも、町議会と共に、地域医療の確保と安心して暮らせるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、ご理解のうえご指導賜りますようお願い申し上げます。

令和7年7月15日

河北町長 森 谷 俊 雄